

歌劇「なつ」一幕二場台本

原作：井原西鶴著 『すがたひめ じ せいじゆうろうものがたり 姿姫路清十郎物語』うきよ ぞうし 浮世草子

時：江戸時代 四代将軍徳川家綱治世の頃  
所：播磨国姫路の城下町

じようきよう 貞享3年(1686)『好色五人女』所収  
天和の後、元禄の前。1684年から1687年までの期間を指す。この時代の天皇は靈元天皇、東山天皇。江戸幕府将軍は徳川綱吉。

登場人物

なつ 姫路の米問屋たじま や但馬屋の当主九右衛門の妹  
清十郎 米問屋但馬屋の奉公人

第一場「花見の場」

A

お夏 みんなでお花見に来られて、よかったわね。峰の桜がとても美しい。

清十郎 こちらの峰から向こうの峰まで、綺麗に咲いて美しいですね。

お夏 本当に。

清十郎 春霞がかからなで、いつまでも遠くの桜が見渡せるといいですね。

お夏 本当に。桜が満開で、みんなでうれしそう。あんなにはしゃいで楽しそう。

お夏のアリア「夕暮れ色の」

夕暮色の桜の花 夕暮れ色のお花見の人たち 夕暮れ色に染まった峰々  
夕暮れ色と満開の桜の趣

お夏 あら、あそこに人だかりができています。 なにかしら？

清十郎 だいかぐら 太神楽の獅子舞です。

お夏 あらまあ、お花見の人たちが、みんな獅子舞見物にってしまったわ。清十郎さん、残っているのは、あなたと私の二人だけになってしまったわ。ふふ。

B

清十郎のアリア「寝ても覚めても」

いいえ、ようやく二人だけになれたのです。私は、ずっとお嬢様をお慕いしておりました。  
寝ていても覚めていても、なつ様に会いたい。お店で働いていても、なつ様に会いたい。

お夏のアリア「この間」

お夏 あーら、そう。この間お店の女の子が つくろ 繕い物をしようと清十郎さんの着物の帯をほどいたら、太夫からの恋文が出てきたそうよ。それも、みーんな別の人からだって。

女の子たちは恋文を回し読みしてたわよ。清十郎さんて、どういう人なんでしょうって、もっぱらの噂ですよ。

清十郎 すみません。それはみんな、お店に奉公にあがる前の手紙です。私はもう、こちらに上がらせていただく前に、恋いの火遊びはやめたのです。今はもう、やっております。

お夏 そう。なら恋文は、焼くか破るかすべきだったわね。

清十郎 すみません。

C

お夏 それでは清十郎さん、私があなたに差し上げた文は、読んでくださったのですか？

清十郎 もちろんです。もちろん、読ませていただきました。

なつ様の手紙を読みながら、なつ様に会いたく 会えぬ日々。なつ様からのお手紙を毎日読んで、毎日読んで、毎日読んで過ごしておりました。

お夏 清十郎さんが、私を好いてくれるのなら、本当にうれしいわ。

清十郎 私は、なつ様の恋の虜になりました。

お夏 そうなの。それじゃあ今日は、千載一遇の機会だね。また、家に帰って、会えないよりも、いま駆け落ちして、ずっと一緒に暮らす方がいいわね。

清十郎 はい。

お夏 二人で港まで走って、船に乗ってしまいませんか。

清十郎 お嬢様が、そうおっしゃるなら、清十郎は喜んでそういたします。

—間—

## D 第二場「船の中」

お夏 ちょうどいい船があったわね。

清十郎 上方へ行く船ですね。大坂あたりまで行って、長屋を借りましょうか。

お夏 二人で楽しく暮らしましょうね。二ヶ月くらいは仕事をしないで。

清十郎 二人だけの幸せが待っているのですね。

お夏 清十郎さんの実家は、何をやっているの？

清十郎 うち造り酒屋です。

お夏 そう。それで、清十郎さんは何人兄弟なの？

清十郎 私は長男で跡取りなのです。なのに私は、遊郭ゆうかくで遊んでばかりの毎日を過ごしてました。太夫と心中したのですが、私は死に後れました。それで今は、親から勘当された身なのです。

お夏 ほ～んとう。

清十郎 しばらく、お寺さんの世話になっておりましたが、将来を考えて修行のために、但馬屋たじまさんにご奉公させていただきました。

お夏 ほ～んとう。心中ねエ。亡くなった太夫は綺麗な方だった？

清十郎 お嬢様の方が、ずっと美しいです。今はもう、恋の遊びはやめました。

お夏 お父様の勘当は、解いていただけないの？

清十郎 将来のための修行中の身ですから。一人前になったら、父も許してくれるとお思います。

## E

清十郎 —間— あれエ、船が引き返してる！

お夏 本当だ! どうして？

清十郎 何で、引き返すのですか？ 何で、引き返すのですか？  
船飛脚ふなびきやくが荷物を忘れたのだそうです。私は捕まってしまう。

お夏 兄の但馬屋が来ていそう。

清十郎 但馬屋さんは、いますよ。ほら、そこ来ています。私は、もう、お終いですね。  
お嬢様は、どうかお幸せになって下さい。さようなら。

お夏 清十郎さんを許して! 清十郎さんを許してあげて!

ああ、悲しい! どうしよう! どうしよう! どうしよう!

## F

お夏 清十郎さんを許して! 清十郎さんを許してあげて!

花見の駆け落ちは、その場で二人で決めたこと。その場で二人で決めたこと!

清十郎さんがいなくては、私は生きていけない。

清十郎さん。いとしい清十郎さん。大切な清十郎さん。

—間—

あ、清十郎さんじゃないかい、清十郎さん。

人違いか。後ろ姿がよく似てる。

清十郎さんは、私をだましていない。

お店の金を持ちだしたって、お金を持って二人で駆け落ちしたって。

—間—

清十郎が処刑された!

清十郎を殺すなら、なつも殺してください!

清十郎さんがいなくては、私は生きられない。

あ、清十郎さんじゃないかい? 緋かすりの着物がよく似合うねえ! ハハハ。ハハハハ。

清十郎ころさばお夏もころせ 生きて想いをさしょよりも

(発狂し、何もとらえず) ハハハハ ハハハハ。ハハハハ。

完